

福祉 × 農業 × 再生

新鮮野菜を生産・加工し廃棄野菜ゼロへ ～地域の農業の担い手となり社会貢献～



≡(★注目ポイント★)≡

- 1 乾燥機を購入したことで、廃棄していた野菜を乾燥野菜として商品化することが可能に
- 2 地域の方々とともに、社会の一員であることを実感し、自己実現と社会参加につなぐ
- 3 農業指導員の助言を受けながら野菜の生産、加工、販売で一貫した作業工程が可能に

医療法人清流会
障害者福祉サービス事業所クローバー
<https://sei-ryu-kai.or.jp/clover/>
 (徳島県板野郡藍住町)

野本農園、木内農園
 茂美農園、島野農園

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

〒771-1201
 所在地 徳島県板野郡藍住町奥野字原223番地の1
 TEL 088-679-7105
 開設年 平成23(2011)年
 実施事業 就労継続支援B型(定員20人、現員21人)
 主たる障がい 精神

利用者の平均年齢 53歳
 福祉事業活動における直接支援職員数 4人
 目標工賃達成指導員の配置 有

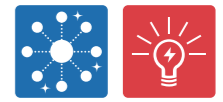


概要

クローバーは、自然と触れることが精神症状を安定させ、野菜の生育に関わると食や日常生活に関心が生まれると考え、事業を始めました。障がい者就労支援協議会を通じて知り合った農園とつながりの輪を広げ、野菜を作っています。

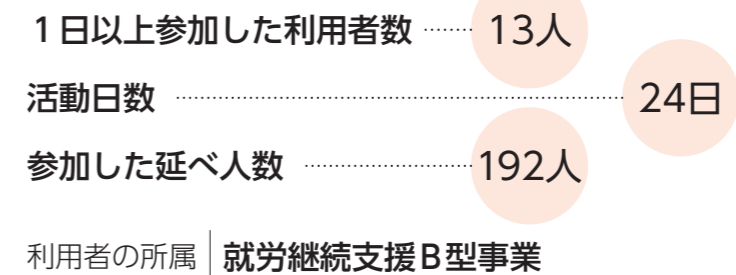
育てた野菜を納品・出荷するほか、規格外野菜はジャムやピクルスに生まれ変わらせます。近隣の農園で収穫された野菜の袋詰め作業等の請負作業や施設外就労も行っています。

SELP Vision 2030



2 4

利用者数と活動日数 (令和3年9月実績)



開始までの経緯

野菜栽培は平成29(2017)年に取り組み始めました。自然と触れ合うことが精神症状の安定につながり、毎日摂取する野菜の生育に関わる作業をすると食や日常生活への関心が生まれるのではないかと考え、徳島県内の種苗会社の指導のもとで、事業が開始されます。

育てた野菜を産直市に持ち込んだ際に島野農園とつながり、事業の趣旨を説明したところ、協力を得られることとなったそうです。

その後、とくしま障がい者就労支援協議会を通じて野本農園とつながり、農福マッチングイベントに参加した折には茂美農園、野菜の買い取り先として株式会社オーコーポレーションとつながりました。さらに野本農園から木内農園を紹介され、連携の輪が広がっていきました。



畑の様子

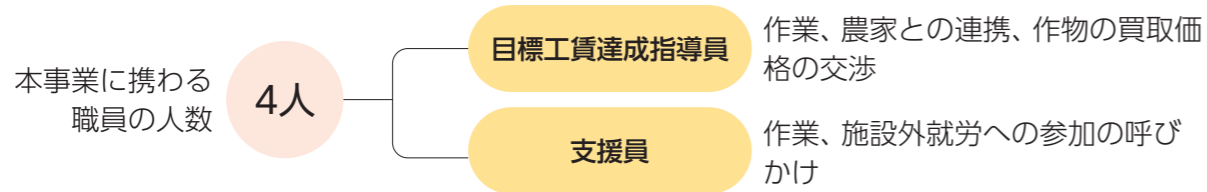
具体的な取り組み

利用者と職員と一緒に野本農園の農業専門員から指導を受けながら、野菜づくり（土造り～収穫・出荷までの作業）を行います。生産した野菜は法人内の病院に給食の材料として納品するほか、株式会社オーコーポレーション等に出荷されています。

これまで廃棄されていた規格外の野菜は、活用してジャムやカクテルピクルス等の食品を製造するようになりました。

近所の木内農園・島野農園で収穫した野菜を施設に持ち込んで袋詰めする請負作業、木内農園・茂美農園の作物の収穫や出荷作業を行う施設外就労も行っています。

職員の役割



目標工賃達成指導員

利用者と一緒に土づくりから出荷までの一連の作業を行い、農業指導の農家の方との連携、作物の高額な取引先を獲得する販路拡大の営業と、さまざまな方との交渉を担当します。

支援員

利用者が安心して作業に取り組むことができる環境を整え、施設外就労への参加をすすめます。

生産設備・備品等

ビニールハウス1棟、管理機2台、消毒機械を使用。請負作業では計量器3台、桶、施設外就労では農機具などを使用します。補助金等は受けていません。

工夫していること、心がけていること

関係者とのコミュニケーション

地域の農家や企業、団体の方々の支援で事業が成り立っています。クローバーの管理者はこの事業に関わる方々と積極的にコミュニケーションをとることを心がけ、定期的に関係者と顔を合わせるそうです。

暑さ対策・安全対策

気温35度以上で作業は中止、こまめに水分を補給し、休憩を取ります。また安全対策として、職員の増員と事前準備（カマやハサミ類の使用の練習）を徹底しているといえます。

品質管理の徹底

商品開発の際には試作を重ね、完成後は検査機関に提出します。品質管理に努めることで、利用者は自分たちが作った商品に自信と愛情をもって販売することができるようになりました。



カクテルピクルスの製造作業



瓶詰したカクテルピクルス

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

課題と対応

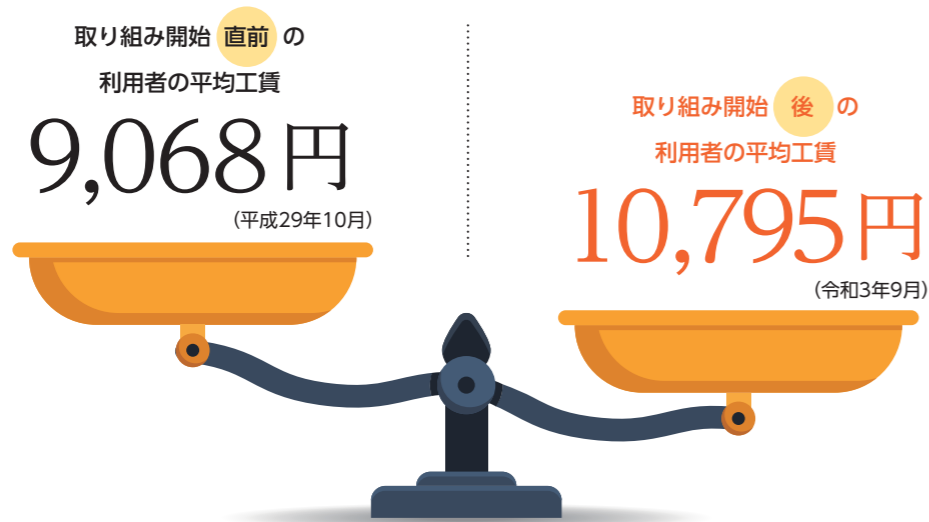
課題 未経験からのスタート → **対応** クローバーは未経験の状態から多くの人や組織に支えられてきました。農業指導員や農業専門員をはじめとする地域農家の指導・支援、研修会への参加、ウェブサイトや雑誌等からの情報収集、職員間の積極的な話し合いなど、知識と技術を習得しながらのスタートでした。

課題 利用者の参加率の低さ → **対応** 当初「農業なんてできない」、「暑い」、「寒い」という反応で参加率が低かった利用者に、職員が熱心に取り組む姿を見てもらい、利用者の能力に応じた作業日数や時間の設定、役割分担をしたことが、参加率の向上につながりました。

課題 連携団体・組織の拡大 → **対応** 農福マッチングイベント、とくしま障がい者就労支援協議会や地域農家の紹介を活用し、連携農家の拡大に努めました。さらに、週1回程度、農業専門員の指導を受け、品質の良い野菜の栽培、農地拡大、生産量増を実現しました。
地元レストランや産直市等とのマッチングの実現、法人内病院の給食材料に収穫した野菜を使用するなど、販路も拡大しています。

工賃の変動

目標工賃達成指導員を配置しています。また、農地を増やし野菜の生産量を増やして収穫量・収益向上につなげています。



反応・効果

利用者の反応・効果

地域の方々に関わる機会が増え、社会の一員としての自信の芽生え、精神的な安定につながりました。これまで休みがちであった利用者が農作業のためにと言い通う姿が見られるようになりました。

職員の反応・効果

農業専門員の指導で、野菜本来のおいしさを追求した品質のよい野菜づくりに積極的に取り組むようになり、スキルアップにつながったと聞きます。障がい者支援の本職と農業従事の両立に苦戦することもありながら、利用者のために一緒に励んでいます。

地域の反応・効果

事業所内で地域向けに野菜やピクルス、ジャムを販売しており、地域の方が事業所を訪ねて来ることが増えたそうです。

★ 展望・課題



主に、農家の作業スピードについていけないこと、事業所と農家の休日が合わないことの解決・調整が課題です。

クローバーの職員は、事業を通じてさまざまな農家や企業、団体と関わることで、精神障がい者が社会の一員として勇気と自信をもって生きていくことができると考えています。地域の方々からの指導や支援、交流を大切にしながら事業を拡大し、利用者・職員ともに成長し続けたいといっています。

クローバーのSDGsへの取り組み

食品ロス削減のため、廃棄野菜やウメの活用に取り組んでいます。当事業所で生産している野菜は、法人内の病院と連携して給食の材料として活用しています。また、連携先である茂美農園でB級品の破棄されるニンジンがあること、県内の酒造会社で梅酒用のウメが破棄されていることを知り、これらのニンジンやウメを活用したジャムを開発しました。

